多角的な事業展開で新たな可能性を追求し百年続く行政書士事務所となる

鳥取県米子市を拠点に、相続手続きと生前対策を主軸業務に全国で事業を展開する『行政書士法人 ORCA』。倉敷代表は『ORCA GROUP』として8つの関連会社を設立し、地域で百年続く企業を目指している。本日は俳優の野村宏伸氏が代表にインタビューを行った。

多様な職業を経て行政書士の道へ 実績を伸ばし日本一の事務所となる

――まずは、倉敷代表がこれまで歩んできた道程から問います。

生まれは鳥取県米子市で、大学時代は横浜で過ごし卒業後は米子市役所に入りました。その後はウェディングプランナー、旅行代理店への出向、宗教色の経営を経て43歳のころに行政書士の資格を取得して独立に至ったのです。

――バイタリティに溢れていますね。

まずはやってみようと考えるタイプなんですよ（笑）。独立後に県内の行政書士が集まる総会に参加したところ、若い方があまりいませんでした。また、当時は士業の世界ではコミュニケーション能力や営業力はあまり重要視されない時代で、そうした状況から、自分のこれまでの経験を活かせば役に立てると感じたんです。どうせなら日本一の行政書士法人になると決め、22年間相続専業を続けて約9年ついに相続専門の行政書士事務所として日本一を達成しました。

――そこまで成長できた要因についてはどのように考えていますか。

人に恵まれたからこそだと思います。かつての同僚が仕事を紹介してくれるなどコツコツと実績を積み上げていく中で、大手からも声が次第にかかるようになりました。また、30歳の仕事では相談の向上やリピーターの獲得といった、クライアントの成功への貢献を最優先に考えた仕事を追求していたことも大きいかと思います。

――ただ相談に乗るだけではなく、その先の発展にまで寄り添い、業界での信頼を獲得してこられたのですね。

「百年士業」を目指して 士業にとどまらない事業を展開する

――現在の『行政書士法人 ORCA』さんについて、教えていただけますか。

『行政書士法人 ORCA』は相続専門の行政書士事務所で、現在は事務所の他に120の金融機関とも提携して120店舗へ拠点を拡大中です。当法人は「日本で最高・最速のサービスを提供すること」をテーマに、300名の社員と共に日々の業務に取り組んでいます。コンサルと営業、両方の役割を担い、お客様の話を聞いて最適な解決方法を提案する行政書士の在宅勤務は60名ほどで、その裏側にあるバックオフィスの仕事を他の社員が支えている形ですね。

――相続は煩雑な手続きが多いイメージですが、頼もしい社員さんがそれだけ揃っているとお客様も安心できますね。

after the interview

「グループ名の由来になったシャチを象徴する存在感を放ちつつ温厚な性格、本質にして、今後ようやく進展できそうです。細部や業務を大切にしつつ歩を進で、徐々でグループ化につけて進めたと感じたとき、それをシャチのように、社員さんと支え合いながら共に広い大海原に飛び出して、世界を進む企業を目指してほしいと思います。今後のご活躍を応援しています！」 野村宏伸 俳

行政書士法人 ORCA
鳥取県米子市上福原 235-9
URL：https://www.samurai-kurashiki.com/

ORCA GROUP
URL：https://orcagroup.jp/

人間は安定で、当法人は社員にとって日本一働きやすく、日本一の給料が貰える行政書士事務所を目指しています。そのためには日本一の仕事をすることが必要で、その拠点となる本社ビルが11月に竣工予定です。2027年に完成予定で、米子市内4カ所に分散しているオフィスを集約させます。分所3カ所に拠点を置いていますが、いずれは全国店舗に支店を置いて別々のことなくカバーできる体制をつくりたいですね。

――新築以来、立ち止まることなく業績に貢献してあられますが、新たな展開は考えてあられるのですか。

今後、時代の流れとともに所会は日々変わっていくと想定しています。主業にこだわらず事業の幅を広げていきたいと。SUMCA GROUP 内に中道と法人や信託会社をはじめ様々な事業をとりとげました。その一つがSAKURAのペットフード事業で、自社で製造販売しています。かなりの反響を頂き、内閣中小企業のバイヤーからも問い合わせがあって、生産体制が整えばより強さらに伸びていく可能性があると期待しています。

――企業にある堅いイメージを覆すような柔軟性をお持ちですね。

スライムのように形を変えながら、時代に適応していきたいと考えています。グループの立ち上げ「百年士業」を掲げているんです。ちなみにグループの名前は私が大好きなシャチ（ORCA）に由来していて、生態系のトップで海の王者であるシャチのように二の業界で他の追随を許さないグループを目指すという思いが込められているんですよ。この思いを理解し、発揮させることができる人にこの会社を託そうと考えています。

――その思いで業界の常識を打ち破っていただきたいです。それでは最後に、将来的な展望についてお聞きします。

私は今40歳で、いつまでもトップでいる年齢ではありません。まずは後継者を育て、会社を継続させていくことが一番の課題ですね。その後は自分の楽しみを追求できたら嬉しいです。アイデアは山ほどあります。設立後で世界各国を訪れた経験や北欧的身というルーツを大切にしながら、日本全国、そして海外に展開してみたいという夢があります。それを実現したいですね。

代表 倉敷 昭久

（取材／ 2025 年 8 月）

COLUMN

『ORCA GROUP』が毎年開催、世界から1万円の寄り上げを約束を事業を考える『ゴー1事業』の一環として立ち上げられた、ペットフード事業を手掛ける『SAKURA』公式：https://www.sakura-oishi.com/。主業には業界初の、設立の背景には創業者の母親で、同社の代表を務める倉敷ゆかり氏自ひとくなった愛犬への思いがあった。

設計開発からペットが欠くてはなら知り存在だった点を、中でも名前の由来となったシーズーの『さくら』は、無年食べることが難しくなっていた中、1年間続けて必死に生き抜いたそう。社長もまた、食べる側で生きて欲しくないという思いから、犬の健康や健康を考えるに知識を身に付け、身に良くて美味しいものを手作りした。さくらは最期の日まで美味しそうに食べたという。

そんなさくらから生まれた作業（ペット用品）が、会社と同じようにペットを大切な家族とする飼い主さんに届いてもらえるよう、と用途で世代の中「ちんこと にゃんこの おいち」。無添加の良くこだわり、手間暇かけて丁寧に作り上げられたオヤツ。犬のための無添加おやつ。一番人気のサツマイモ・ジャーキー」を初じめ、老犬や老猫まで楽しめる豊富なラインアップが揃っている。今後も何かは原点となったさくらのことを忘れず、安心・安全で品質の高品を出品、そして海外に様々・愛猫家のもとに届けていく。